

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	百年以上の超長期秘匿性を保証する情報通信ネットワーク基盤技術
研究代表者	富田 章久 (北海道大学・大学院情報科学研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、現代暗号技術と先端量子鍵配送(QKD)技術の融合によって、計算機の飛躍的発展や量子計算機の実用化後においても、秘匿性を保証できるネットワーク技術の基盤を構築しようとするもので、社会的に重要な課題である。秘匿性確保への懸念を、QKD 技術の問題点を回避して解決することは、時宜を得た挑戦的課題であり、両分野の研究者の本格的な連携により実用化を促進しようとする点に特色がある。</p> <p>本研究では、目的が明確に設定され、応募者をはじめ、量子暗号や秘密分散系に関する顕著な実績を有する強力な研究協力体制が構築されていることから、大きな研究成果が期待できる。また、QKD 技術の高度化には新手法に関する提案も含まれており、先進性と学術的意義が認められるとともに、通信の高度化への波及効果も期待できる。</p>